

お客様各位

---

## カタログ等資料中の旧社名の扱いについて

---

2010年4月1日を以ってNECエレクトロニクス株式会社及び株式会社ルネサステクノロジが合併し、両社の全ての事業が当社に承継されております。従いまして、本資料中には旧社名での表記が残っておりますが、当社の資料として有効ですので、ご理解の程宜しくお願ひ申し上げます。

ルネサスエレクトロニクス ホームページ (<http://www.renesas.com>)

2010年4月1日

ルネサスエレクトロニクス株式会社

【発行】ルネサスエレクトロニクス株式会社 (<http://www.renesas.com>)

【問い合わせ先】 <http://japan.renesas.com/inquiry>

# RENESAS TECHNICAL UPDATE

〒100-0004 東京都千代田区大手町 2-6-2 日本ビル  
株式会社 ルネサス テクノロジ  
問合せ窓口 E-mail: support\_apl@renesas.com

製品分類	専用 IC	発行番号	TN-ASP-017A/JA	Rev.	第 1 版
題名	M66291/M66290 受信データ長に関する制限事項		情報分類	使用上の注意事項	
適用製品	USB ASSP M66291GP/M66291HP USB ASSP M66290AGP/ M66290AFP	対象ロット等	関連資料	-	

## 1. 現象

EP0\_FIFO または CPU\_FIFO (注 1) に対し、FIFO 選択レジスタへの書き込みを行なった後、FIFO レディビット="0"の FIFO 制御レジスタを読み込んだ時、読み込んだ FIFO 制御レジスタの受信データ長の値が、実際に受信したバイト数と異なる場合があります。

## 2. 発生条件

FIFO レディビット="0"を確認した後、再度 FIFO 制御レジスタを読み込み、その値から受信データ長を抽出するアプリケーションの場合、本制限事項は該当しません。

EP0\_FIFO または CPU\_FIFO (注 1) に対して、RCNT="1"の設定で使用し、FIFO 選択レジスタへの書き込みを行なった後、FIFO レディビットが"1"から"0"に変化してから約 21ns(注 2)以内に FIFO 制御レジスタを読み込んだ場合、本現象が発生します。

また、この場合の値は「実際に受信したバイト数 +2」となります。

## 3. 回避方法

下記いずれかの方法で本現象を回避する事ができます。

- (1) 受信データ長の読み込みは、FIFO 選択レジスタへの書き込み後、FIFO レディビット="0"を確認した後、再度 FIFO 制御レジスタを読み込み抽出する。
- (2) EP0\_FIFO 及び CPU\_FIFO を RCNT="0"と設定し使用する。

(注 1) EP0\_FIFO 及び CPU\_FIFO と FIFO 選択レジスタ、FIFO レディビット、受信データ長の関係は以下の通りとなります。

	FIFO 選択レジスタ	FIFO レディビット	受信データ長
EP0_FIFO	EP0_FIFO_SELECT (H'30)	E0req (H'32:bit11)	ODLN (H'32:bit8-0)
CPU_FIFO	CPU_FIFO_SELECT (H'40)	Creq (H'42:bit11)	CPU_DTLN (H'42:bit10-0)

(注 2) 48MHz の 1 クロック時間=20.83ns 21ns

以上